

平成18年  
1月30日

# 病害虫発生予報 2月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

安全・安心な農作物は、農薬使用の記録と農薬使用基準の遵守から！  
農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病	1
促成ピーマン：タバココナジラミ バイオタイプQ	1
促成トマト：コナジラミ類	1
促成キュウリ：褐斑病，べと病	2

【その他の病害虫】	2
促成ピーマン，促成キュウリ，施設野菜	

### II. 病害虫ミニ情報

水稻の種子消毒について	3
農薬登録速報(12月)の概要	5

### III. 今月の気象予報

### IV. テレホンサービス

☆普通作物	029(226)5321
☆園芸作物	029(226)6131

本文に記載された農薬の登録内容は、平成18年1月30日現在のものです。  
農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。  
茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445  
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.jpnn.ne.jp/ibaraki/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

##### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病葉率は平年よりやや高く、発生地点率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 気象予報によると、向こう1か月の天気は平年と同様に晴れの日が多く、日中の孢子飛散は盛んになると考えられる。また、今後、発病に好適な温度条件の時間が長くなると、発生が増加すると予想されるので注意する。
- ② 罹病した葉や果実などは、ハウス内に放置せずにハウス外へ持ち出し土中深く埋める。また、果実に発生すると被害が大きくなるため、防除を徹底する。
- ③ 薬剤は、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。
- ④ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

#### 促成ピーマン

##### 1. タバココナジラミ バイオタイプQ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生葉率0.3%、発生地点率25%で、先月に比べ低下した。
- ② ピーマンハウス内は、加温により夜間も温度が高く、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ピーマンで、タバココナジラミ バイオタイプQの発生を初めて確認した。従来、ピーマンではコナジラミ類の発生を認めなかったため、ピーマンでコナジラミ類が発生した場合は、タバココナジラミ バイオタイプQの可能性が高い。
- ② 生息密度が高くなると果実にすす症状を生じるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ タバココナジラミ バイオタイプQは薬剤抵抗性が発達しているため、0.4mm目合いの防虫ネットや、黄色粘着板など物理的防除法も活用する。(※病害虫発生予察特殊報第4号参照)

#### 促成トマト

##### 1. コナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、オンシツコナジラミの寄生葉率、発生地点率は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難となるため、発生初期に防除を徹底する。
- ② コナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬剤散布は、薬液を下方から吹き上げるようにするなど、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

**促成キュウリ**

**1. 褐斑病**

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病葉率、発生地点率とも平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 1月下旬の発病状況は概ね発生初期であったが、多湿条件下での伝染力が高いので、十分に換気しハウス内を除湿する。
- ② 発生の少ないうちに、防除を徹底する。
- ③ 新たな伝染源とならないよう、病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。
- ④ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

**2. べと病**

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病葉率、発生地点率とも平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が高湿多湿になると発生しやすくなるので、十分に換気を行う。
- ② まん延すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

**【その他の病害虫】**

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
促成 ピーマン	アザミウマ類	発生量：平年並	1月下旬現在、平年並の発生である。
促成 キュウリ	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在、平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量：平年並	1月下旬現在、平年並の発生である。
施設野菜	灰色かび病	発生量：平年並	1月下旬現在、イチゴでは平年よりやや多い発生で、促成トマト、促成キュウリ及び促成ピーマンでは平年並の発生である。

## II. 病害虫ミニ情報

### 水稻の種子消毒について

種子は更新することが基本ですが、自家種子を使用する場合は種子消毒を徹底してください。水稻の種子伝染性病害虫としては、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、イネシנגアレセンチュウ等があります。健全な苗を育成するためには、これらの種子伝染性病害の防除が必要です。下記のポイントを考慮して防除を行いましょう。

#### 採種ほ産種子（消毒種子）の場合

採種ほ産種子（消毒種子）には、モミガードC・DFとスミチオン乳剤が処理されています。このため、改めて種子消毒を行う必要はありません。浸種の際は、種もみ1kgに対して水40とし、3日間は水を換えないようにします（次ページ図1の4. 浸種以降参照）。

#### 自家種子の場合

自家種子は、種子伝染性病害虫が発生していない水田から採取した健全なもみを使用してください。表1を参考に薬剤を選定します。処理方法は、浸漬、塗沫、湿粉衣があります（利用できる処理方法は薬剤によって異なります）。塗沫または湿粉衣では使用する薬剤量が少なく、農薬使用量低減の観点からこれらの方法が望まれます。

表1 種子伝染性病害虫に適用のある主な種子消毒剤（平成18年1月25日現在）

病 害 虫 薬 剤	ばか苗 病	いもち 病	ごま葉 枯病	もみ枯 細菌病	苗立枯 細菌病	褐条病	イネシガ レセンチュウ
スポルタック乳剤 *	○	○	○				
トリフィン水和剤	○	○	○				
ヘルシード水和剤	○	○	○				
スターナ水和剤				○	○	○	
スポルタックスターナSE	○	○	○	○	○	○	
テクリートCフロアブル *	○	○	○	○	○	○	
モミガードC・DF	○	○	○	○	○	○	
スミチオン乳剤							○

注) 1 使用にあたっては、農薬のラベル等をよく読み、使用基準を確認して下さい。

2 種子消毒に用いた薬剤も農薬の総使用回数にカウントされます。

3 スミチオン乳剤については、製造会社により稲に登録が無い場合があるので、注意してください。

4 \*印の薬剤は浸漬処理の場合、浸漬処理後に風乾しなくても防除効果が得られます。

#### 化学農薬以外の種子消毒法

化学農薬を用いない種子消毒法として、下記の方法があります。

1. 温湯処理：60℃の温湯で10分間の浸漬処理により、いもち病、ばか苗病、イネシנגアレセンチュウを防除することができます。ただし、処理水温・時間を正確に行う、処理後は水中で速やかに冷却するなどの点に注意が必要です。
2. 生物農薬：平成18年1月末現在、下記の薬剤が農薬登録されています。
  - ① エコホープ：対象病害虫；いもち病、ばか苗病、ごま葉枯病、苗立枯病（リゾープス菌）、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病
  - ② エコホープドライ：対象病害虫；いもち病、ばか苗病、苗立枯病（リゾープス菌）もみ枯細菌病、苗立枯細菌病
  - ③ モミゲンキ水和剤：対象病害虫；苗立枯細菌病、もみ枯細菌病

## 作業の流れ

### 1. 塩水選

種子消毒の前に塩水選を行って充実したもみを選別します。塩水は、うるちでは比重 1.13（水 100 に対し食塩約 2.7 kg または硫安約 3 kg）、もちでは比重 1.08（水 100 に対し食塩約 1.7 kg または硫安約 1.8 kg）に調整します。

### 2. 水洗い

塩水選後は沈んだ種もみをただちに水洗いし、水切りをして塩分をできるだけ取り去って下さい。

### 3. 種子消毒

#### a 塗沫処理

乾燥もみ重量の 3% の薬液を種もみが乾燥した状態で（原液塗沫の場合は種もみに重量の 2% 程度の水を加えて予め湿らせる）、全体に行き渡るように徐々に加え、よく混合します。

#### b 湿粉衣

乾燥種もみの 0.5% 重量の薬剤を使用します。種もみに重量の 2% 程度の水を加え、よく攪拌してから粉衣します。

塗沫処理、湿粉衣とも、ポット型コンクリートミキサー等を用いると均一に処理できます。

#### c 浸漬処理

①種もみと薬液の容量比は 1 : 1 以上とします（めやすは種もみ 1kg に薬液 2ℓ 以上）。

②袋をよくゆすり、種もみ表面に薬剤を均一に付着させます。長時間浸漬（5 時間以上）の場合は、浸漬中に薬液を 1～2 回攪拌します。薬液から引き上げた種もみは水洗いせず日陰に 24 時間放置し、種もみに薬液を乾燥・固着させます。

③水温は 10～15℃ とします。水温が低すぎる場合には、薬剤の効果が低下することがあります。

### 4. 浸種

①浸種は河川、ため池などで行わないで下さい。流水中では薬剤が流亡して防除効果が低下するので、バケツやたらい等に溜めた水に浸漬します。

②種もみと水の容量比は 1 : 2 とします（めやすは、種もみ 1kg に対して水 4ℓ）。

③水を交換する場合は、3 日以上経過してから静かに行います。

④水温は 10～15℃、期間は積算温度（水温×日数）で 100～120℃（水温 10℃ で 10～12 日間）として下さい。めやすは「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」は 120℃、「ゆめひたち」は 110℃、その他の品種は 100℃ です。

### 5. 催芽

①催芽の程度は、出芽を揃えるために必ずハト胸状態とします。

②もみ枯細菌病は催芽や出芽時の高温条件で発生が助長されるので、加温条件は 28～30℃ とし、必要以上に高めないように注意して下さい。

### 6. 播種

①播種量が多すぎると病害の発生を助長します。適正な播種量を守ってください。

#### 留意事項

①種子消毒の残液、廃液および容器・器具などの洗浄に使用した水は適正に処理してください。かんがい水路、排水路、河川、湖沼などの水系には流さないでください。

②種子伝染性病害虫の対策以外に、育苗中に土壌や資材から伝染する苗立枯病の対策として、消毒済の床土や育苗箱を用いるとともに、育苗中は適正な温度、水管理を行う必要があります（これらについては次回以降に掲載予定です）。

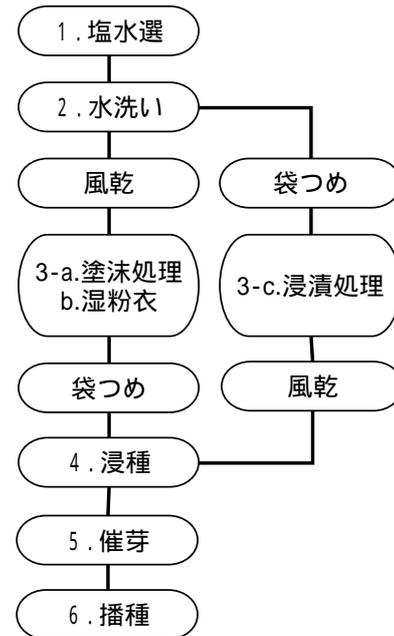


図1 作業の流れ

## 農薬登録速報（12月）の概要

平成17年12月期間中（12/1～12/31）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

### ○ 殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規>あめんこ100, エコピタ液剤, キラップジョーカーフロアブル, サンリットDF,  
スタークルエア-50, スタークルメイトエア-50,  
ホクコーキラップジョーカーフロアブル, ホクコーフタバロンA粉剤,  
ホクコーホクガードC顆粒水和剤, ユーピーエルエピヒューム,  
ユーピーエルエピヒューム小球, 協友ベストガード水溶剤, 協友ベストガード粒剤

変更>アクタラ粒剤5, アグロスオサダン水和剤25, アディオン水和剤,  
アドマイヤー1粒剤, エコホープ, エコホープドライ, オサダン水和剤25,  
オレート液剤, カスミンボルドー, カダンセーフ, カッパーシン水和剤,  
カリグリーン, カルモック, キヒゲン, キヒゲンR-2フロアブル,  
クミアイアドマイヤー1粒剤, クミアイコテツフロアブル,  
クミアイダイアジノン粒剤5, クミアイダイアメリットDF, コテツフロアブル,  
サンケイアディオン水和剤, サンケイダイアジノン粒剤5, ストロビーフロアブル,  
セイビアフロアブル20, ダイアジノン粒剤5, ダイアメリットDF,  
ダニメツフロアブル, ダブルプレーAL, ディ・トラペックス油剤,  
ドイツボルドーDF, トレボンEW, ネキリトンK,  
ブルースカイAL, ブルースカイ粒剤, ホクコーアディオン水和剤,  
ホクコーダイアジノン粒剤5, マイトコーネフロアブル, モスピラン粒剤,  
ヤシマアディオン水和剤, ヤシマアドマイヤー1粒剤, ヤシマコテツフロアブル,  
ヤシマダイアジノン粒剤5, ラービフロアブル, ラリー乳剤,  
ランナーフロアブル, 三共アディオン水和剤, 三共ダイアジノン粒剤5,  
日産ストロビーフロアブル, 日産ダイアジノン粒剤5, 日曹コテツフロアブル,  
日曹ストロビーフロアブル, 日農スプレーオイル, 日農ダイアジノン粒剤5,  
日農モスピラン粒剤

### ○ 除草剤等

新規>SDSイッテツジャンボ, イッテツジャンボ, クサトリ-DX1キロ粒剤H75,  
ドニチS1キロ粒剤, ノンウィード粒剤, バイエルイノーバDXアップ1キロ粒剤75,  
協友イッテツジャンボ, 協友バレージ粒剤, 協友草笛ジャンボ, 協友草笛フロアブル,  
三共クサトリ-DX1キロ粒剤H75, 三共クサトリキング

変更>エイトアップ液剤, グリホエキス液剤, コンパカレール液剤, サンフーロン液剤,  
デュポンロロック, ハーブ・ニート液剤, ハイーフウノン液剤,  
ラウンドアップハイロード

### ○ 植調剤等

変更>ビーエー液剤

○ 失効農薬

SDSハヤテ1キロ粒剤, ウィードレスAジャンボ, ウシコフラパー, オーセン,  
オフナック乳剤, オリブライトグレートム1キロ粒剤, ガゼットエース粒剤,  
キタスマバッサ粉剤DL, クミアイ ソルネット1キロ粒剤,  
クミアイランガードバッサ粉剤DL, クミアイランガード粒剤,  
グリーンエムダイファー水和剤, クロレートS粉剤, コントラクト1キロ粒剤,  
サンケイダイファー水和剤, ジェイサン乳剤, シエーリングスポルタックスターナSE,  
シオノギ・コントラクト1キロ粒剤, シオノギ・ホクト1キロ粒剤,  
ジョンカラーふじ, シンジェンタ・ガードジェット水和剤,  
スカーラフロアブル, ゼネカ・ゴースイン粒剤, ゼネカ・フジグラス1キロ粒剤51,  
ゼネカ・フジグラス1キロ粒剤75, ダイファー水和剤,  
チバガイギー・ホクト1キロ粒剤, トモノマンネブダイセンM水和剤,  
ハースオリブライトグレートム1キロ粒剤, バイエルリボルバー1キロ粒剤,  
ホクコーイネグリーン1キロ粒剤75, ホクコーカスラブルーバントレボン粉剤3DL,  
ホクコークサメツフロアブル, ホクコーテツワン粒剤, ホクコールーバンM粒剤,  
ホクコー石灰硫黄合剤, モーダウン粒剤, ヤシマカヤフォス粒剤5,  
ヤシマサンウエル1キロ粒剤, ヤシマベステン, ヤシマラブサイドトレボンゾル,  
ヤシマラブサイドマラバッサ粉剤DL, ヤシマワイダック乳剤,  
ラブパダンバリダベスト粉剤DL, ラムジン1キロ粒剤, リーダル1キロ粒剤,  
ルーキー1キロ粒剤75, レルダンバシボン粉剤DL, ワンスレイ粉剤DL,  
永光ウィードレスAジャンボ, 三共ウィードレスAジャンボ,  
三共ダイファー水和剤, 三共ラブサイドスミチオン粉剤DL,  
三共ランガードバッサ粉剤DL, 三共ランガード粒剤,  
石原コントラクト1キロ粒剤, 石原ラムジン1キロ粒剤,  
日産オリブライトグレートム1キロ粒剤, 日産オリブライトパック,  
日産テツワン粒剤, 日産デナボン水和剤50, 日農スカーラフロアブル,  
日農ダイファー水和剤, 武田スカーラフロアブル, 武田ソルネット1キロ粒剤,  
粉住友硫酸銅, 明治ハヤテ1キロ粒剤

※ 農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。

### Ⅲ. 今月の気象予報

#### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月28日から2月27日)

気象庁(1月27日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は平年並でしょう。降水量は平年並でしょう。日照時間は平年並でしょう。

<1週目の予報> 1月28日(土曜日)から2月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い

<2週目の予報> 2月4日(土曜日)から2月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か低い

<3週目から4週目の予報> 2月11日(土曜日)から2月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

### Ⅳ. テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病虫害の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

☆普通作物 029(226)5321

2月上旬 水稲育苗期間中の病害対策とその準備について

中旬 水稲の種子消毒について

下旬 水稲の苗立枯病対策について

3月上旬 育苗箱施用剤の特徴と薬剤選びについて

☆園芸作物 029(226)6131

2月上旬 施設野菜病虫害の発生現況と防除対策について(1)

中旬 施設野菜の灰色かび病について

下旬 果樹の休眠期防除について

3月上旬 施設野菜病虫害の発生現況と防除対策について(2)